

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 11月 4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2671500037
法人名	社会福祉法人 未生会
事業所名	グループホーム ちくりんえん
所在地	〒629-0103 京都府南丹市八木町諸畑後町14番地 (電話) 0771-42-6900

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年10月19日	評価確定日	平成21年11月16日

## 【情報提供票より】(平成 21 年 9 月 1 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 11 年 1 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 4 人, 非常勤 9 人, 常勤換算	7.35 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋ストレート葺 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,000 円	その他の経費(月額)	22,200 円	
敷 金	有( 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		1,200 円	

### (4) 利用者の概要( 9 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	1 名	要介護2	2 名			
要介護3	3 名	要介護4	3 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	85.7 歳	最低	72 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	さとう医院、村井歯科医院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当該ホームは南丹市の緑豊かな自然に囲まれた場所に位置し、軽費老人ホームと認知症デイサービスが併設されています。利用者が何を望んでいるかを第一に考え、仕事をするためではなく、共に生活するために職員はホームに通っています。毎月利用者の行きたい場所に職員と1対1で出かける個別外出は、職員配置を増やすことで実現した取り組みで、共に楽しむスペシャルデーとなっています。また、地域に対する取り組みとして「シルバー110番」を設立し、認知症の相談窓口のみならず、地域の人々を対象に養成講座を開催し、地域の認知症相談窓口を年々拡大し、他の地域にも協力の輪が広がっています。利用者や家族、地域にとっても無くてはならない存在となっているホームです。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の課題であった、地域密着型サービスとしての理念を上げたり、鍵をかけない取り組みの実現など、職員間で話し合いながら改善に取り組まれています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、白紙の自己評価票に職員がそれぞれ記入し管理者が取りまとめて作成され、職員会議の中でも改善に向けて話し合われるなど、全員での取り組みが見られます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に一度、家族、地域住民、市担当者、民生委員、地域包括支援センター職員、管理者、職員が参加して開催されています。会議は家族会を兼ねて開催したり、利用者の様子をスライドショーで見たり、他ホームの見学を行う等参加メンバーにも会議の内容の意見をもらい、年間予定を作っています。議事録は欠席者にも郵送されています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年に1度、行事の際に家族会を開催し、直接意見交換する機会を確保しています。その際、家族の要望や職員のマナーやケアについてのアンケートを実施しています。出された意見は職員会議や各委員会等で検討され、サービスの向上を図っています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の福祉祭りに利用者が作った手芸作品を出展し、地域の人々と交流しています。また近隣の喫茶店に毎月地域の高齢者と共に集い、カラオケを楽しんでいます。介護の専門家として「シルバー110番」を開設し24時間相談窓口を設置したり、一般の人々を対象に認知症の講習会を開催し、地域の見守りサポーターを養成する等、地域との連携を図っています。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の外部評価を受けて、利用者も交えて職員間で話し合い、今まであったホームの理念に加えて、地域密着型サービスとしての内容を盛り込まれ、新たに理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は利用者に清書して頂き、リビングの誰からも良く見える位置に掲示されている。意志の統一を図るために、常に理念に立ち返り、思いがぶれない様に調整しながら、日々のケアにあたっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の福祉祭りに利用者が作った手芸作品を出展し、地域の人々と交流している。また、近隣の喫茶店に毎月地域の高齢者と共に集い、カラオケを楽しんでいる。介護の専門家として「シルバー110番」を開設し24時間相談窓口を設置したり、一般の人々を対象に認知症の講習会を開催し、地域の見守りサポーターを養成している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価の課題であった、地域密着型サービスとしての理念を作り上げるなど、改善に取り組まれている。また、今回の自己評価は、白紙の自己評価票に職員がそれぞれ記入し管理者が取りまとめて作成され、職員会議の中でも改善に向けて話し合われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に一度、家族、地域住民、市担当者、民生委員、地域包括支援センター職員、管理者、職員が参加して開催されている。会議は家族会を兼ねて開催したり、利用者の様子をスライドショーで見たり、他ホームの見学を行う等参加メンバーにも会議の内容の意見をもらい、年間予定を作っている。議事録は欠席者にも郵送している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは、運営推進会議の参加に加えて社会福祉協議会や地域包括支援センターと共に「シルバー110番」の協賛を頂いている。日々の働きかけにより、行政との強い協働関係が構築されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月担当職員が利用者の暮らしぶりや健康状態を手紙に書き、写真やケアプランの進行状況と共に郵送している。その際に金銭管理についても出納帳のコピーと領収書を同封している。職員の異動がある時は、職員の手紙と写真を家族に送り報告している。また「ちくりん新聞」を季節ごとに発行してホームの行事や運営等を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度、行事の際に家族会を開催し、直接意見交換する機会を確保している。その際、家族の要望や職員のマナーやケアについてのアンケートを実施している。出された意見は職員会議や各委員会等で検討され、サービスの向上を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員はそれぞれの得意な分野を業務で自由に発揮し、利用者との個別の支援に活かしている。また、定期的に管理者と面接して悩み等の相談も含め、長所を伸ばしながら適切なアドバイスを受けることが出来ている。職員の離職は少なく、馴染みの職員によるケアが継続されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人、現任共に法人の研修計画に則り、随時研修に参加している。またグループホーム連絡会主催の研修会にも定期的に参加している。研修後は他の職員に伝達研修を行い、報告書、資料は回覧し情報を共有している。法人内で認知症支援対策委員会を立ち上げ、勉強会を開催したり、ホーム内でも委員会活動を通じ、スキルアップを図っている。また中間テストと称する職員自身の自己評価を行い、個々の課題に取り組むきっかけとなっています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者がグループホーム連絡会の役員でもあり、他のホームと積極的に関わりを持ち、交換研修を行ったり、定期的の実習生を受け入れている。管理者は「シルバー110番」の活動を通じ講演会等の依頼も多く、地域や事業所の垣根を越えた交流の輪が広がっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームでは見学や体験をしていただき馴染みの関係作りを心がけている。独居の方で日帰りの体験を何日か続け、そのまま入居に繋がった利用者もいる。併設のデイサービスからの入居者や利用者同士での顔馴染みもいるなど、家族の協力を得ながら、スムーズな入居に繋がっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者は利用者に対しては仕事としてではなく、一緒に暮らしていく相手として接するよう職員に伝えている。職員は日々の生活の中で人と人の繋がりを感じながら、ほめてもらったり叱ってもらいながら、共に過ごすことを実感している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望は日々の会話の中で把握するよう努めている。センター方式のアセスメントを利用し、職員間で共有し、その後の変化については、必要なシートのみ活用している。毎月ケース会議を開き、利用者の思いや支援方法について検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎年の家族会の後に、個々の家族にケアプランの説明会を行い、新たな希望や要望についても聞いている。家族の希望やアセスメント、ケース会議での職員の意見をケア委員が精査し、それをもとに計画作成担当者が利用者の視点に立ったケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは毎月のケース会議でモニタリング、評価され3ヶ月毎に見直しを行い、変更が無ければ6ヶ月毎に更新されている。状態に変化が見られる場合には、その都度見直されケアプランの変更に繋がっている。日誌を日々の様子と特記事項・医療面に分けて記載し、ケアプランの進行状況の把握に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ほとんどの通院介助や外食、買い物等希望に沿った支援を行っており、家族の希望があればホームで葬式を行うことも可能である。ホームでは「スペシャルデイ」と称する個別外出を毎月設け、利用者と職員が1対1で好きな場所に出かける支援を行っている。外出後は利用者と職員がそれぞれ感想等を個別デイノートに記載してもらい、後日に楽しかった様子を思い出せるよう支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に利用者や家族に相談しかかりつけ医を決めている。ホームの協力医と連携を図り、毎週往診して頂き、緊急時や夜間も連絡可能となっている。また併設施設の看護師の協力を得て日頃の健康管理を行うなど、医療面での安心な体制が確保されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取りに対するホームの方針を説明している。家族や医師の協力のもと、看取りの経験もあり、苦痛を伴う処置は個別に訪問看護に対応をお願いしている。ホームでは家族が希望した場合、医師を交えホームとして出来ることについての話し合いをしたうえで、ケース会議を開き担当職員を中心に職員間で方針を決定している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホームでは利用者の呼ばれ方にこだわり、本人や家族が希望する呼び方で声かけをするように心がけている。誘導の際の声かけも、常にプライバシーに配慮しながら行なっている。個人の情報は事務所の鍵付きの書庫に適切に保管され、家族には個人情報開示の同意書を取っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの1日の流れはあるが、無理強いすることなく利用者個々のペースを尊重している。職員がゆったり待つ姿勢を示すことで、利用者の自己決定を促し希望に沿った支援に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	担当職員が利用者の希望を聞き、冷蔵庫の中身を見ながら献立を決定している。利用者と職員は食材の買物を始め、下ごしらえから片付けまでの一連の作業を共にし、畑で収穫された野菜も利用しながら同じテーブルで楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴予定日は決まっているが、希望があれば毎日の入浴も可能である。夏場は職員配置を増やし、夜間のシャワー浴も行っている。入浴委員会が担当職員を助け、拒否が見られる利用者の対応や、季節ごとの入浴方法等について、入浴が楽しいものとなる工夫している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴から、家事やホームの周りの草ぬきや畑仕事、花の植え替え等の役割りを担ってもらっている。裁縫の得意な利用者は繕いものや手芸を楽しまれ、利用者が講演会の垂れ幕を作成してくれることもある。また音楽療法や民謡など、ボランティアの来訪も楽しみの一つとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩や買い物、ドライブなどはもちろんのこと、喫茶店でのカラオケや図書館、外食等、自由に出かけることが出来ている。また毎月の個別外出は利用者にとって無くてはならない行事となっている。畑仕事や庭の手入れ、中庭で食事やお茶を楽しむなど、常に外の空気を吸い、季節を感じる事が出来る支援をされている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解し、日中の施錠は一切行っていない。居室も吐き出し窓になっており、自由に外に出ることが出来る。また地域に声をかけ、捜索訓練を行ったこともあり、家族や地域の協力を得ながら、施錠しない取り組みを継続していくつもりである。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立ち会いのもと、年に2回併設の法人と合同で避難訓練を開催している。独自でも夜間の常備燈や備蓄の用意もある。市役所との連携は取れており、通報すれば協力を得られる体制が構築されており、消防団にも協力を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師からの指導等、必要な利用者のみ摂取量を記録している。食事委員会の職員が担当職員を手助けし、メニューを基に利用者も交えた食事についての会議を開き、法人栄養士の助言を受けながら利用者個々の状態に応じた形態での提供を心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームでは愛犬や魚を飼っており、利用者は職員と一緒に世話をしている。玄関や庭先、畑に花や野菜を植え、リビングの原木をはめ込み作られたボードには、季節の貼り絵や写真が飾られる等、利用者はいつでも季節を感じることが出来ている。芝生がある庭先にテーブルやベンチを配し、お茶や食事を楽しまれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は掃き出し窓となっており、自由に出入りができ、芝生の庭が続いている。ホームでは、入居に際しての制限はなく、希望があればペットの同居も可能である。利用者は自宅よりベッド、家具、仏壇、家族の写真等を持参され、カーペットを敷き、こたつを置いている利用者もいるなど、居心地良く過ごされている。		